

国分寺市図書館運営協議会平成18年度第2回定例会要点記録

日 時：平成18年11月16日（木）午前10時から12時

場 所：本多公民館 会議室2

1. 国分寺市図書館運営協議会の運営方法について

会長：議題は、会の運営方法についてと、事務局から平成18年度の図書館活動と19年度図書館予算についての説明がある。委員の名前を市の広報に載せるかどうか確認する。

事務局：「図書館だより」に載せる。委員の住所と電話番号は非公開とする。名前、選出区分、所属団体のみ広報する。

会長：了承。議事録は、要点記録とするか全文記録とするか。公開の方法は、「図書館だより」に掲載するか。小金井市は合意をとってホームページ上に載せている。

委員：日野市は要点記録だった。ホームページ上には公開していない。

委員：要点記録にし、市民が見られるように公開してほしい。ホームページや「図書館だより」には載せなくてよい。公開前に委員に事前に回してもらいたい。

委員：図書館運営協議会を市民に理解してもらい、意見を吸い上げることを考え、伝わりやすい方法がよい。ホームページを開けば様子がわかるようにしてほしい。

会長：会の記録としては情報公開の対象となる公の議事録と、市民へのお知らせとしてのものである。

副会長：公民館運営審議会は市民が読みやすい、会の雰囲気わかるようなものを出しているが、そういう形のもは別の問題か。

会長：都立図書館でも、協議会について積極的に知らせるものを広報に載せている。

委員：市民の立場では簡潔な方がいい。

会長：公開請求があったときに出すのか、それとも図書館に置かれるのか。

事務局：公開請求があった時は要点記録を見せる。ホームページに載せるかどうかは技術的な面もあるので、図書館で検討したい。図書館では要点記録をいつでも見られるようにしておきたい。

会長：議事録は要点記録とし、正式に決定する前に委員のチェックを受けることとする。

公開の方法は、次回までに事務局と相談し決めることとする。

今後の協議会の運営方法について協議する。「市民サービスの向上をはかるための図書館のあり方について」という諮問を受け、また必要に応じて建議することになっている。もうひとつは日常的な図書館サービスについての意見をどう反映するかということ。子ども読書活動推進計画の策定もある。その他、学習や視察も必要になるかもしれない。諮問を受けて今後どのように進めていくか。

委員：利用者懇談会が各館で行われたが参加者が少ない。どんなことが話されたか。

事務局：サービス面では、開館時間のこと、検索システムのこと。資料に関しては、新刊本を揃えてほしいこと、市内5館の文庫本・縮刷版・参考資料等の配架のことなど。児童サービスでは、学校との連携、子ども読書活動推進計画など。施設面では、改築移転の問題、空白エリアへの希望、勉強机、雑誌コーナーの椅子、ICチップのこれからの可能性など。主催事業では、読み聞かせの講座、各図書館での文学講座の希望などのご意見をいただいた。利用者懇談会は出席者が少ないので、工夫が必要であると考えている。

委員：利用者の声を参考にしながら進めていってほしい。

委員：障害者の人たちはどのくらい利用しているのか。障害者のための資料が十分かどうか。最新医療情報ならば医者から入手する。どう病気を克服したかという患者の経験談は大切な情報である。障害者向けコーナーの利用率、稼働率、コストパフォーマンスはどうなっているか。障害者センターに蔵書を揃えコーナーを設けるなど、図書館が支援することが必要なのではないか。検索システムはどうか。

事務局：インターネットで蔵書検索ができる。

会長：日野市には障害者自身が職員でいる。

委員：レファレンスのことを知らない人が多い。「行く場所に本がある」と良い。国分寺の歴史や風土などの地域の情報の充実が必要である。学校の図書館との関連をもっと進めてほしい。

委員：泉町など図書館から遠い地域を会場にして懇談会をしてほしい。おはなしグループのボランティアの窓口を図書館につくってもらいたい。図書館が市民と一緒に活動してほしい。子ども読書活動推進計画も地域の人と一緒に考えてほしい。児童図書のおすすめ本の選書も市民と一緒に考える会を設定してもらえるといい。東村山市では、ホームページに「〇〇というテーマで選書会をします」というお知らせがあり、市民と一緒にやっている。

事務局：子ども読書活動推進計画については、地域の方と一緒に考えて策定していきたいと考えている。泉町の空白地域についても工夫が必要であると考えている。ボランティアについては、選書だけでなく人手がほしいというのが現状である。

委員：日野市では、図書館のこれからのサービスについて冊子を出していた。これからの図書館の発展にはボランティアとの協力は欠かせない。利用者懇談会の意見も踏まえ、レファレンスや子どもの読書をどうするかなど何点かにテーマを絞って話し合っていくのが良いのではないかと考える。

委員：大学図書館の市民開放は土日を開館しなくてはならないため人件費がかかる。自分のところの学生に本当にサービスをしているのかということも考えさせられる。現在も市民に開放しており、図書館に利用カードを預けているが、目的をはっきり持って来館してほしい。今の学生は本を読まないのが悩みである。図書館では

オンラインで予約をかけられるのか。

事務局：貸出中の資料は予約をかけることができる。

委員：新聞のオンラインのデータベースは10万円ぐらいで導入でき、縮刷版のスペースもいらなくなる。新刊書は予算的には難しいが入荷スピードは速くなっている。

委員：図書館に期待することは本を置いてほしいということ。本屋で買えないような古い本を図書館に置いてほしい。廃棄についても考えて行きたい。検索して、あるはずになっている本が結構ない。時間と手間をかけて整理した方がよい。選書は本当に公正で中立な選書をしているのか。古い本の書評を作っていくのもいい。レファレンスは重要だが自分はインターネットを使っているため利用していない。図書館にインターネットを導入するのがいいのか意見を伺いたい。今後の運営については、各委員からこの会議に向けて文書で意見を出してもいいというルールを作ってもらいたい。公開の対象にするかどうかの検討は必要。

会長：意見を協議会宛に出していくということでもいいか。

委員：団塊の世代が家にずっといるようになって、通勤で本屋に寄ることがなくなると、気楽に読みたい本があることが図書館に足を向けさせるのではないかと思う。価値観が人によって違うので予算、経営、施設の問題などピントを合わせていければ、いろいろ意見が出てくると思う。

会長：短い会議時間なので、全部意見を出していくのはたいへんである。書いて提出していただくことをしてみてもと思うが。

事務局：事務局としても議論に参加させていただく場面があると思う。事前に意見をいただけるものは送っていただきたい。話し合いの整理ができる。

委員：施設の件でいえば、障害者のことでは市役所そのものが利用しにくい。泉ホールが使えない。図書館は車椅子で自由に行き来できるのか。トイレはどうなのか。

事務局：本多は公民館共有のトイレで、車椅子で入れるトイレが公民館にある。他館は全館とも図書館にある。老朽化しているので段差があるところもあるが、バリアフリーの施設にすることが必要である。立て替え計画は今のところない。

会長：次の議題は事務局の報告。

事務局：平成18年度図書館活動の報告。本多図書館夜間開館は、夏休みに利用が定着したが、冬場に寒くなるとどうなるか様子を見ている。懇談会、協議会、登録更新、学校と市立図書館連絡協議会等、以下紙面を以て説明。

委員：夜間開館の利用状況はどんなようすか。

事務局：5時頃は館内に50人ぐらいの利用者がいる。7時までは多いが7時を過ぎると少なくなる。8時の閉館時には館内に10人ぐらいの利用者である。

会長：「図書館だより」の発行形態は。

事務局：以前は独立したA4版4ページぐらいのものを全戸配布で発行していたが、今は市報に折り込みとなっている。

会長：手刷の「図書館だより」のようなものは作っているのか。

事務局：子どもの本の紹介の冊子はカウンターに置いてあるが、「図書館だより」は作成していない。

委員：「図書館だより」が別刷だったのが折り込みになって情報量は変わったか。

事務局：以前は年3回発行だったのが2回になった。折り込みになったことでビジュアルなものになった。

委員：登録更新の方法は。

事務局：平成15年10月以前に登録した人を対象に、住所の確認できる証明書を見せていただき更新手続きをお願いした。登録時からだいぶ期間がたったので、確認の意味も含め行った。

会長：他市などでは図書館の事業要覧みたいな冊子を出しているが、国分寺ではあるか。

事務局：市役所の各課と一緒に「事務報告書」に載せている。前回お配りした「国分寺市立図書館利用状況平成17年度」と同じ内容である。

副会長：学校へ市民のグループがおはなしの出前を行っていることを、図書館の方で把握して報告してもらいたい。

事務局：現在は把握できていない。調査する。

委員：把握していくことで連携が始まるのではないだろうか。おはなしの出前ひとつとっても地域ごとの格差がある。この統計で数えると図書館の事業が17クラス、「でんでんたいこ」は40数クラスやっている。

事務局：平成18年度予算及び19年度予算案の説明。

会長：予算のポイントは。

事務局：図書費が平成14年度から毎年6%ぐらいずつ下がっている。修繕費については建物の老朽化が激しく、本多図書館に一括して予算化し、やりくりできるように変更した。図書費は平成18年度3100万円から平成19年度は2900万円まで、約200万円下がることになる。部ごとの枠配当予算になり、市全体が3.3%の減、3年で10%の減になる。

副会長：もとまち図書館と並木図書館は、今年度と来年度の減額の差が多い。恋ヶ窪図書館は利用増のため増額になるのか。

事務局：図書館全体で調整した予算案である。

事務局：地区別利用登録者数の説明。

委員：登録率はこれくらいのものなのか。図書館としてはこれ以上を目指すのか。

事務局：利用が少しでも上に向くように努めていかなければと考えている。

委員：図書館を利用している人数が他に比べてどうなのだろうか。泉町や西元町の人は恋ヶ窪図書館やもとまち図書館に行っているようだが、図書館に近い地域の方が図書館を利用する率の方が高いのか。

事務局：図書館に近い地域に住んでいる人の利用率が高い。

委員：内藤地域が一番低い。人口も少ないかもしれないが、図書館からも遠いし、小学校からも遠い。

委員：内藤地域の方は国立市の図書館を利用している。内藤地域センターにも本が置いてある。

会長：10月31日現在の登録者数をみると、実質的な登録率は3割ということになり、多摩地域では平均的な登録率になる。人口に対し2万人に1館、5館あるので密度の高いレベルで図書館があるといえる。課題もあり、期待に十分応えられていないようだが、これから検討していかなくてはならないと考える。

委員：登録率はその図書館で登録した人数で、利用実体とは違う。

委員：図書館の館内にいる人の数字の把握はできているか。

事務局：本多図書館は多い時は100人を超え、カウンターに列ができる。他館は20～30人ぐらいである。レファレンスについては件数、内容の調査をしている。

副会長：子ども読書活動推進計画の策定については、運営協議会では何かするのか。

事務局：計画については図書館を中心に市役所各課と連携し、市民に意見を伺いながら策定することになる。職員内部で調査研究し、たたき台を作り、子どもに関連する部署と連携しプロジェクトを作る。市民レベルでは、パブリックコメントでご意見を頂くことになる。その後教育委員会にはかる。

副会長・委員：市民の声を聞くシステムはどうなるのか。

事務局：ワークショップ形式をとると時間がかかる。たたき台を作って市民に、また運営協議会に諮るようにしていきたい。

副会長：利用者懇談会は次回もやる予定か。

事務局：今回は図書館としても検討し、夜間や日曜日に開催した。普段の要望はカウンターで伺っている。細かい改善は日々行っているのですが、場所や時間の問題だけでなく、不満はあまりないのかもしれない。また検討してみる。

副会長：参加人数は少ないが、これだけ出る意見を積み重ねていくことは貴重だ。本多図書館で6時から開催したが、勤労者はこの時間には出られない。夜間のことで配慮したのならもう少し遅い時間から（7時）とか。

事務局：市では6時から行うケースが多いので。職員体制もあったので対策を考える。

委員：委員宛の運営協議会の通知は市報にお知らせが載ってからだいぶ後に来た。早くできないか。

会長：次回は2月15日（木）、19日（月）、22日（木）で場所の調整をする。

事務局：今日配布した要点記録について、訂正があればお知らせください。

副会長：次回の審議予定についての意見が前もっていただければ、能率的でよい。事務局に出せばよいのか。

事務局：事務局から郵送して、返送してもらうなどの方法を検討する。